

日本留学試験 (EJU) 結果

校内トップはインドネシアの学生

6月20日に世界8か国で実施された日本留学試験(EJU)に、JETから17名が受験し、進学クラスのNathanael Ian Gunadiさん(インドネシア)が「日本語」(400点満点)で344点を取り、校内トップでした。世界最高点は369点でした。

進学クラス(AクラスとBクラス)の平均は260.9点で、全受験者の平均245.4点を15.5ポイント上回りました。

総受験者は、2019年6月試験31,919人の約半数となる、16,167人でした。

「読解」で世界最高点

分野別に得点状況を見ると、「読解」(200点満点)で、彭柏勳さん(台湾)が世界最高点の198点を記録しました。彭さんは昨年10月に初級クラスに入学したばかりで、中級レベルに入ってまだ3か月も経っていませんが、素晴らしい成績を修めました。

また、「聴解・聴読解」(200点満点)では、Nathanael Ian Gunadiさんが164点で校内トップでした。(世界最高点は171点)

日本語の「記述」(50点満点)では、世界平均が34.4点だったのに対し、進学クラス平均は39.1点でした。

「日本語」校内ベスト3 (400点満点)

順位	クラス	氏名	出身	得点
1	A	Nathanael Ian Gunadi	インドネシア	344
2	A	Loy Yun Wei	マレーシア	342
3	A	彭 柏勳	台湾	313

第26回 校内スピーチ大会 最優秀賞はフィリピンのKateさん

— 2年ぶりの会場実施 —

夏休みを目前に控えた7月29日、ハイライフプラザ板橋で毎年恒例のスピーチ大会を開催しました。昨年はビデオを録画して各教室で鑑賞するかたちをとったため、全校学生が一堂に会して行うのは2年ぶりです。東京都のガイドラインを基に万全の感染症対策をとり、外部の方はお招きしませんでした。

各クラスの子選を勝ち抜いた10か国12名が出場。皆、気持ちのこもったスピーチで聴衆を引き込みました。3名は海外からオンライン(Zoom)での発表でしたが、会場にいるかのような臨場感がありました。

最優秀賞はKate Vivianne Olayres Dela Cruzさん(フィリピン)が獲得しました(3面に原稿を掲載)。Kateさん自身が挑戦して失敗した経験から、挑戦することの大切さを情熱的に話してくれました。優秀賞にはCouraye du Parc Arthus, François-Gaud, Michel, Richardさん(フランス)と陸芷妍さん(マカオ)の2名、努力賞にはMichael Ryanさん(インドネシア)が選ばれました。

コンテストを盛り上げるポスターは、クラス代表にも選ばれたLee Lie Kenさん(マレーシア)が作成しました。

入賞者には後援会から賞品が贈られました。最優秀賞はkindle paperwhite 8G。優秀賞は①音楽鑑賞セットと②和セット(お椀や夫婦箸など)のいずれか。努力賞は渋沢栄一セット(マスクとタオル)。参加賞は輪島塗のお箸。なお、お椀とお箸は石川県の輪島で漆器の工房を営む垣内幸彦様からのご提供です。

7月に開講したサマーコースの学生もZoomで落語を発表しました。(5面を参照)巧みな語りと、分割された画面上で実際に井を受け渡しているように見せたパフォーマンスで会場を沸かせました。(石津)



出場者たち。オンライン組はスクリーンの左から順に陸さん、Kenさん、顔さん。ステージ上は左から山口校長、Kateさん、Kennethさん、洗さん、Michaelさん、Austinさん、Kenichiさん、新垣さん、Kritsakornさん、Arthusさん、越野理事長。対面の出場者は全員近大マスクを着用。

【スピーチコンテストの全出場者と演題(発表順)】

1	Kenichi Adriel Lumban Tobing (C・インドネシア)	わたしのパタック語
2	陸 芷妍 (A・マカ)	憧れの道
3	Couraye du Parc Arthus, François Gaud, Michel, Richard (E・フランス)	世界はそれほど広くない
4	洗 楽謙 (D・香港)	「偽り」の関係—「共依存」
5	Lee Lie Ken (F・マレーシア)	趣味の大切さ
6	Austin Antonio (B・インドネシア)	ロックマンXの面白さ
7	Leu Kenneth (E・マカ)	人生はゲーム
8	顔 貝嬭 (D・台湾)	夢をあきらめないで
9	新垣 直美 (F・日本/タイ)	前から今までの私
10	Michael Ryan (B・インドネシア)	自分のキャパ
11	Choatchaojaru Kritsakorn (C・タイ)	たなばたによせて
12	Kate Vivianne Olayres Dela Cruz (A・フィリピン)	挑戦して得たこと

新入生 23 名迎え新学期スタート

4月期は新入生 23 名(うちオンライン 19 名)を迎え、6 クラス、64 名でスタートしました。

在籍者全体の国籍は、台湾 24 名、インドネシア 11 名、マレーシア 7 名、タイ 5 名、香港 5 名、マカオ 3 名、韓国 3 名、アメリカ 1 名、フィリピン 1 名、フランス 1 名、日本 3 名です。

3月31日にクラス分けテストを実施し、4月1日には昨年の10月期同様、オンラインで入学式を行いました。新入生は言語別の GoogleMeet に参加し、越野理事長と山口校長から歓迎の挨拶を受けました。各グループで在校生と卒業生が通訳にあたりました。

* * * * *

コロナの影響で、今期もオンライン併用での対面授業が続いています。宣言期間中の対面授業ではマスクとフェイスシールドを常時着用する、午後はオンライン授業に移行し、集団での飲食を控えるなど、感染対策を徹底してきました。

しかし8月に入り、東京都内の感染者数が拡大し、宣言の延長が決まりました。それを受けて JET では、夏休み明けの 8月23日から、全面オンライン授業としています。期間は2週間で、クラスごとに週に1回の登校日を設けています。

教職員も在宅勤務を活用し、出勤者数を3割に留めています。

今後の体制については、ワクチン接種を希望する学生へのサポートをしながら、検討する予定です。

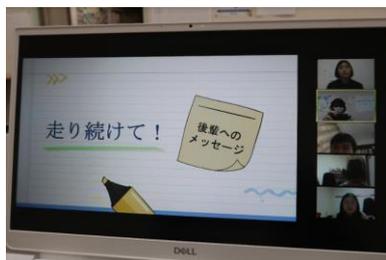
「走り続けて！」後輩へエール

先輩を招いて進学科座談会

4月26日、30日、5月26日、卒業生を招いてオンラインで大学・大学院進学座談会を行いました。

ゲストには、3日間で9名の卒業生を迎えました。学部理系の座談会には、尹暎暎さん(韓国・日本大1年)、Asa Satyagraha 君(インドネシア・東京理科大2年)、Maria Ignatia さん(インドネシア・近畿大3年)の3名。文系の座談会には、Mahesa Pamungkas Sugiharto 君(インドネシア・明治大1年)、黄玖嵐さん(台湾・国際基督教大2年)、Wan Liang Jia 君(マレーシア・中央大3年)の3名。大学院の座談会には、陳秉暉君(台湾・東京電機大学大学院修士1年)、邱冠禎さん(台湾・お茶の水女子大学大学院修士2年)、龔晏平さん(台湾・国立大阪大学大学院修士2年)の3名が参加し、後輩たちのために体験談を話してくれました。

オンラインでの開催は昨年に続いて2回目です。進学科の学生たちは、先輩たちの話に未来の自分を重ねて聞いているようでした。後輩のために日本全国から集まってくれた素晴らしい



卒業生を誇らしく思うと同時に、先輩からのエールを受けた進学科の現役生の今後の学びに大いに期待したいです。(木村)

模擬テスト実施

6月のEJU、7月のJLPT(日本語能力試験)に向けて、校内で模試を実施しました。4月14日に行ったEJUの模試には17名が、5月26日のJLPTの模試には計23名(N1~N3)が参加しました。

大学院研究計画発表会を終えて

7月7日、進学科の大学院志望者による研究計画発表会を行いました。今年の院志望者は5名で、全員台湾出身。うち2名は対面で、3名は台湾からオンラインで参加しています。

山口校長をはじめ、8名の先生方が、一人一人の発表を聞き、研究計画内容について質問をしました。初めて話す先生からのコメントをいただくときなどは、緊張感が一気に高まりました。

各自の発表を頑張るのはもちろんですが、他の学生の発表を真剣に聞いている姿勢も素晴らしかったです。先生方からの鋭い指摘も、勉強になるものばかりでした。独特の緊張感の中で発表したオンラインの学生達も、つい半年前までは初級クラスだった対面の学生達も、全員がしっかりと準備して、堂々と発表していました。次回の発表会は年末を予定しています。(草塩)

金美齡名誉理事長から台湾若者へ

～オンライン日本留学説明会にて～

5月15日の日本留学説明会(台湾「日本村」主催)に、名誉理事長の金美齡先生がライブ出演しました。配信は、新宿御苑の新緑を見下ろす金美齡事務所と台湾をつないで行いました。元留学生であり、JETの校長・理事長を長年務めてきた金先生。そして、今なお評論家として幅広い言論活動を行なう金先生が語ったのは、「なぜ日本に留学したのか」、「日本語を学ぶ意義」、そして「JET日本語学校設立の思い」でした。質問もたくさん出て、熱心に耳を傾ける視聴者の熱意がPC越しにも伝わってきました。動画はJETのYoutubeにて近日公開予定です。(得猪)



新緑色の服をまとい、熱く語る金美齡先生

【第26回校内スピーチコンテスト最優秀賞】

「挑戦して得たこと」

Kate Vivianne Olayres Dela Cruz (Aクラス)

皆さん、こんにちは。私はケイト・ビビアン・オライレス・デラクルズと申します。フィリピンから参りました。



皆さんの人生の中に挑戦することを恐れている時がありましたか。特に新しいことを始めようと思う時怖かったことがありますか。

また、慣れない環境に慣れようとしたり、様々な心配があるのではないのでしょうか。

なぜ、挑戦を怖がっている人がいるのでしょうか。それは、リスクが高く、失敗する可能性が非常に高いからだと思えます。また、その人達は挑戦を恐れているのではなく、失敗することを怖がっているのではないのでしょうか。

確かに、行動する前に考えることは良い事だと思います。新しいことに挑戦する前に様々なことを考えなければなりません。例えば、どんなリスクがあるのか、どうやって失敗を避けるのかという考え方です。挑戦する前から、最後に失敗することばかりを考えると、本当に失敗してしまうと思えます。しかし、リスクがあっても、挑戦するメリットはあると思えます。

挑戦するほど失敗も多いのではないのでしょうか。失敗したら、心が痛くなったり、失望したりするかもしれませんが、その失敗の中から新しく学ぶこともあると思えます。

私は日本に来て2年経ちました。その2年の中で、様々なことに挑戦しました。特に大きかった挑戦は、去年の12月に高いレベルの大学を受験したことです。けれど実は最初から、その大学に合格するはずないと思っていました。自分に合っている大学を探しましたが、父は反対でした。日本で就職は難しいので、高いレベルの大学に入った方がいいとアドバイスしてくれました。確かに、父の言うことは正しいですが、納得できませんでした。その高いレベルの大学に合格するわけがないから、やめた方がいいと私は言いました。しかし、私が何回説明しても、父はこう言いました。「結果に関わらず、後悔しないように挑戦したほうがいい」。

私はもう大学に入りたいという気持ちでした。なぜなら高校のクラスメイトはもうみんな大学生だからです。私は2年遅れているので、だめな人間だと思えました。今年の4月に大学生になり、大学生活を送りたかったです。

そのために、自分がその高いレベルの大学に行けるわけがないけれど、挑戦しました。結果はもうわかっていましたが、一番大事なことは自分が挑戦してみたことだと思います。新しい考えが身につくと思うので、挑戦することは無駄ではないと思えました。

そして、2月12日にオンライン授業の休憩の時に、結果が来て、見ました。結果はやっぱり不合格でした。その結果を見てから、一番思ったことはどうやって期待している両親に伝

えるかです。その時すごく泣きたくて、とてもつらい瞬間でした。

大学に落ちたことでフィリピンに帰されるのかなと心配しました。その夜、勇気をもって、両親に結果を言いました。そしたらがっかりした顔を両親はしました。とても落ち込んでいました。父は私をフィリピンに帰すといいました。私はフィリピンに帰りたくないと強く言いました。日本で大学に入りたいといいました。その結果最後のチャンスをくれました。それで、来年の4月に大学生になるために、今一生懸命勉強しています。家族も励ましてくれます。去年と比べると、今のやる気は違います。私は挑戦して、失敗した経験から、どん底にいる自分がどうやって立ちあがるのかを学びました。自分に足りない部分や短所を見つけました。前の自分より成長することができました。

失敗することを怖がる必要はないとおもいます。失敗は成功の元なので、若いうちにたくさん挑戦と失敗を繰り返して、成功に近づきたいと思えます。年齢を問わず、挑戦は自分の成長に関わることだと思うので、怖がらないで、一生懸命頑張りましょう。皆さんも、結果に関わらず、後悔しないように挑戦してみましょう。私のスピーチは以上です。ご清聴ありがとうございました。

後援会会費納入のお願い

JET日本語学校後援会は奨学金・学習奨励金の給付等、本校で学ぶ学生達を支援しています。校内スピーチ大会での賞品の一部や遠足の補助金は、後援会からの支出によるものです。

2020年度は延べ22名の方から282,000円のご支援をいただきました。本校の教育事業にご賛同いただける方は、会費を納入していただければ幸いです。

年会費：3000円 賛助会費(一口)：2000円

郵便為替口座:00140-1-101927 JET日本語学校後援会

★★★

海外からのお振込みの場合は、手数料のかからない決済代行サービス flywire をご利用いただけます。

<https://www.flywire.com/pay/jet-academy/>

校内のワクチン接種状況

7月後半から、ようやく「東京都教育関係者の優先接種」が始まり、本校教職員の8割が2回目の接種を終えました。学生たちはなかなか自治体での予約がとれませんでした。8月初旬から「専修学校、各種学校の学生向け大規模接種」の情報が入り、少しずつ予約できるようになってきました。現在、1回目の接種を終えた学生が20%、9月末までには希望者の90%が2回目の接種を終える予定です。(8月31日現在)

越野理事長、井上専務理事が再任

6月の理事会および評議員会において、任期満了となる役員の改選がおこなわれました。越野充博理事長、井上靖夫専務理事がそれぞれ再任され、評議員には森山翔先生が新たに加わりました。

就職セミナー 対面で再開

4月から、日本での就職希望者を対象に校内就職セミナーが始まりました。昨年は完全オンライン方式だったので、1年ぶりの対面式です。4月26日に中上級クラスの13名が総合ガイダンスに参加し、5月17、24、31日には(株)Asia Linkから井上洋輔講師をお招きして「業界及び自己分析」「自己PRと履歴書の書き方」「模擬面接」をご指導いただきました。今期は新たに企業経験豊富な奥山信也先生が履歴書の仕上げや面接のポイントについてアドバイスくださり、履歴書の基本形を全員しっかり完成させることができました。コロナ禍での就職活動はたいへん厳しいとはいえ、留学生の日本就職に対する意欲も高く、粘り強く就職活動を続けているひともし何人もいます。内定の朗報も入ってきましたが、就職活動は長期戦。引き続き健闘祈ります!(得猪)



↑自己分析中。「え、ぼってそう見える?」クラスメイトの冷静なコメントに驚く...

2021年度奨学生 追加決定

本年度文科省から給付されるJASSO学習奨励費受給生としてLaura Lee Zi Lynさん(マレーシア)を推薦し、決定しました。

今年度の受給が決定した学生はこれで計6名になりました。

また、千本財団より第4期奨学生2名の推薦依頼をいただき、Nathanael Ian Gunadiさん(インドネシア)、Loy Yun Weiさん(マレーシア)を推薦しました。こちらは財団の選考を経て10月に決定予定です。

北区日本語教室に山口校長

6月30日から毎週水曜日、全4回、北区主催の地域日本語教室の講師を山口校長が務めました。プロの日本語教師による授業は、北区としては初の試みでした。中国、バングラデシュ、台湾など20名以上の申し込みがあり、今後もぜひ続けてほしいとの声をいただきました。10月からも継続して行う予定です。

マレーシアの日本語学校で特別講師

6月2日、9日、23日、マレーシアのAtoZランゲージセンターの学生さん8名に、オンラインで日本語の授業をしました。コロナが収束したらいつか必ず日本に行きたいという気持ちで、日本語の勉強を続けている人たちです。プレゼンテーションの授業では、各自がPPTを準備し、立派な日本語で、自分の生活や好きなこと、今のマレーシアの社会問題などを発表してくれました。涙が出るほど感動的なプレゼンでした。(山口)

絆を深めた「クラス内交流会」

5月13、14日に「クラス内交流会」を行いました。

例年この時期には「春の遠足」を実施していますが、コロナウイルスの感染状況から「学校全体での外出」は中止という判断をしました。しかし、遠足の目的の一つである「クラスメイトとの親睦を深めること」を、できる形で行いたいと考えました。

そこで開催されたのが「クラス内交流会」。続く入国制限で今期もオンライン受講の学生が多く、使用機材の調整のために日程を二日に分けました。各クラスで、山口校長がゲストとして参加し、挨拶をしました。特技披露、スリーヒントゲーム、クロスワードにお絵描きバトル。交流会を通してクラスメイトや先生の新たな一面が見られたようで、どのクラスも盛り上がっていました。2時間という限られた時間ではありましたが、クラスの絆が深まったのではないのでしょうか。(郷野)



↑半分がオンライン受講ですが、受験に向けて心は一つ!(Aクラス)



←たくさん日本語が話せた! (Eクラス)

EJU 対策数学 開講

11月のEJU(日本留学試験)対策講座として、7月31日から「数学」のオンライン授業をスタートしました。毎土曜日、初級・上級ともに全12回の日程です。対象は、主に海外在住の高校生などです。

7月3日にはその体験授業を行いました。インドネシアから約10名、タイからは約20名が参加しました。コロナウイルスの影響で日本に来られない中、日本の大学進学に向けていち早くEJUの準備をしたいという思いを感じることができました。(森山)



初の「オンラインサマーコース」開講

— 様々な文化体験を通して「日本」を学ぶ —

毎年夏に開講してきた6週間のサマーコース。昨年は中止となりましたが、今年は入国制限が続く中で完全オンラインでの実施を決め、7月2日から4週間の日程で開講しました。

受講生4名は全員が台湾からの参加。大学で日本語を専攻する殷婷儀さんは、2015年に続いて2回目の参加です。

一日3時間の授業のうち、2時間を日本文化体験、1時間をN2の学習とした新しい形のサマーコースとなりました。料理教室、専門学校体験授業、日本の大学生との交流会、漫才の発表、歌などの多彩なメニューで日本を満喫できたようでした。スピーチ大会では落語の「時そば」を4人で披露して、大会に花を添えてくれました。



特別授業「漫才で覚える日本語」

— 吉本興業から講師 —

「どうも～！〇〇です！」「もういいよ！」聞き覚えのあるお笑いのフレーズが教室から聞こえてきました。行われていたのは日本語を「漫才で覚える」特別授業。7月9日と21日、講師に吉本興業所属のお笑い芸人フランポネのお二人と藤田ゆみさんをお招きして行いました。クラスは日本語レベルに合わせて分けました。講師の「模範」漫才の後は、学生同士でコンビを組んでネタ作りへ。「ラップして」「♪～」「違うよ、包んでってこと！」過去に間違えたり、うまく伝わらなかつたりした日本語をネタにした漫才で、上手に笑いを誘いました。



フランポネのお二人(前列左から3、4番目)と、藤田ゆみさん(同5番目)を囲んで (C・Dクラス)

東京女子大からインターン

6月から、東京女子大学の学生をインターンとして受け入れています。週二回、授業見学をしながら、学校の事務などを手伝っていただいています。

アプリで缶バッジ作りに挑戦！

7月26日、Fクラス(初級)とオンラインサマーコース合同で、東京ビジュアルアーツ専門学校の体験授業に参加しました。

内容は缶バッジ作成。アプリに読み込んだ画像に様々なツールを駆使して透過、着色等の加工を施し、オリジナルデザインを作成しました。説明の中には難しい言葉もありましたが、手順を一つずつ確認しながら丁寧に進め、全員が素敵なデザインを完成させることができました。また、専門学校への進学を考えている学生にとっては、授業を受けるために必要な日本語力の指標にもなったようです。(郷野)



できあがった缶バッジ。あれ、ジェッピーの姿も…

星に願いを…

七夕を前に7月2日から校内では笹を飾りました。学生たちは願いごとを思い思いに短冊に書きこんでいました。まだ日本に来られないオンライン受講者にも願いごとを書いてもらい、印刷して短冊にしました。「コロナウイルスがなくなりますように」、「日本にいけますように」など今年の願いは例年以上に切実です。(森山)

《学生たちの願い事》

★早く日本へ行けるようになります！ ★世界がよくなりますように
★みんなの願いが叶いますように ★早く日本へ行けますように ★オンラインの学生が早く日本に来られますように ★コロナウイルスが終わりますように ★世界平和 ★ワクチンが接種できますように ★もっと日本語が上手になりますように ★多摩美術大学に合格できますように ★コロナがなくなりますように ★魔法が使えますように ★両親が健康でありますように ★いつかお金持ちになる！ ★皆が安心して過ごせる日が早く訪れますように ★青山学院大学に合格できますように ★慶應義塾大学大学院に合格できますように ★コロナが早く終わりますように ★健康第一 ★信州大学に合格しますように ★JLPTのN2で120点以上取れますように ★九州大学に合格しますように ★日本人の彼女ができますように ★コロナの心配がなくなりますように ★マスクをつけずに生活ができますように ★N2に合格しますように ★恋人ができますように ★早く日本へ入国して、クラスメイトに会えますように ★皆が幸せになりますように ★アルバイトが見つかりますように ★ICUの学生になれるように ★日本で就職したい人の希望が実現しますように ★早く自分に合った彼女ができますように ★梅雨が早く終わりますように ★北海道大学に合格しますように ★N1試験で135点以上取れますように ★JLPTのN1に合格しますように ★皆健康でいられますように ★将来のすべてがうまくいきますように ★大学に入れますように ★コロナウイルスが世界からなくなりますように

日本事情 1年半ぶりの開講

本校の今年度の目標の一つは「できることをやる」です。昨年度は1講座も開講できなかった日本事情を、今年度前期は4つ開講しました。「絵本作家になろう」(郷野)、「なつみの台所」(山下)、「和紙で遊ぼう」(竹川)、「いろいろ日本」(郷野、木村、石津、得猪、山口)です。うち2講座は完全オンラインとし、海外からの学生も一緒に参加しました。全て新しい試みでしたが、どのクラスも素晴らしい作品、料理などが完成し、いつもは見られない楽しそうな学生たちの表情を見ることができました。(山口)



「なつみの台所」では肉じゃがなどを作り、日本の家庭の味をオンラインで生配信。



「和紙で遊ぼう」では、和紙染めに挑戦！色遣ひにも個性が光ります。

日本語を使う機会を本国へ

夏の「スペシャルクラス」開講

7月31日から3週間、進学クラス以外は夏休み。夏といえばお祭りに花火に海！と言いたいところですが、依然として続くコロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、日本にいる学生も本国にいる学生も、なかなか出かけることができません。

特に海外からオンライン受講を続けている学生たちは授業外で日本語を使う機会がほとんどありません。

そこで夏休み中、オンラインの在校生を対象に、週に3回「スペシャルクラス」を自由参加のかたちで開講しました。日本人の高校生、大学生をお招きしての交流会、オンライン運動会、映画鑑賞会、ゲーム大会など、内容は盛りだくさん！国にいながらも頑張っている同志たちとの、クラスの垣根を越えた交流は、参加学生たちの励みになっていたようで、全8回すべて出席した人もいました。

実際に参加できるイベントやアクティビティーに制限がある中でも、チャンスを見つけては掴み、食欲に学びを続ける彼らの熱意に胸を打たれます。

以下、「スペシャルクラス」の詳細です。

① 8月2日 オンライン運動会

ラジオ体操で体をほぐしてから、4つの競技を楽しみました。中でも一番の盛り上がりを見せたのは、制限時間内に部屋にある服をどれだけたくさん着られるかの競争。運動会BGMの定番、『天国と地獄』が流れ出した瞬間、全員画面外へダッシュ！！スペシャルクラスの賑やかな幕開けとなりました。

② 8月4日 オンライン交流会【詳細は8面】

③ 8月6日、⑥ 16日 オンライン演劇

宮沢賢治『注文の多い料理店』を元に作られた台本で、セリフやナレーションを学生が読み、先生が人形を動かすかたちで人形劇をしました。何度も練習を重ね、皆で息を合わせて劇を作り上げました。



学生自作の可愛い人形たち

④ 8月11日 オンラインゲーム大会

初めて顔を合わせる学生もいたので、まず行ったゲームは「予想ランキング」。「一番長く片足立ちができるのは誰？」「カードをたくさん持っているのは誰？」まだよく知らないはずなのに、なぜか票が偏っていました。全部で4つのゲームをして、皆で盛り上がりました。



⑤ 8月13日 映画鑑賞会

お菓子、ジュースを片手に鑑賞したのは『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ オトナ帝国の逆襲』。日本の映画はよく見るけど、字幕なしで見るのは初めてという学生も多かったです。皆で楽しい時間を共有しました。

⑦ 8月18日 オンライン交流会【詳細は8面】

⑧ 8月20日 オンラインで日本語会話

最終日は「理由を話すこと」をポイントに、思い出のものや特別なものをエピソードとともに紹介しあいました。初任給で買った靴にギター、子供の頃熱中したゲーム、卒業記念にもらったプレゼントなど、国は違えど共感して語り合える話が盛りだくさんで、話に花を咲かせました。(郷野)



ア ク テ イ ウ イ テ イ

○歌舞伎鑑賞教室

6月9日と7月19日、両日で学生延べ18名を連れて歌舞伎鑑賞教室(国立劇場)に行ってきました。6月の演目は「人情噺文七元結」、7月は「義経千本桜」でした。

参加した学生たちは皆初めての歌舞伎鑑賞でしたが、日本のポップカルチャーが好きな人ばかり。歌舞伎の音楽やファッション、ストーリーに触れ、自分が好きなカルチャーのルーツを感じることができたようです。(郷野)



○能楽鑑賞教室

6月21日、学生9名と能楽鑑賞教室(国立能楽堂)に参加しました。参加した全員が初めての能楽鑑賞ということもあり、迫力ある謡や囃子を通して、能の世界観に引き込まれていました。日本の伝統文化に触れるいい機会になりました。(山下)

講談「渋沢栄一」を聴いた！

7月15日午後、Cクラスが神田京子氏の講談『渋沢栄一伝～変化を恐れない男～』と安藤優一郎氏講演会『慶喜復権と渋沢栄一』(北区渋沢プロジェクト講演会主催：会長は越野充博理事長)を聞きに出かけました。会場は渋沢栄一が後半生を過ごした北区飛鳥山の麓にある「北とぴあ」。上級クラスとして事前に渋沢著『論語と算盤』を読み、人物像も調べてからの講談初体験。張り扇(はりおうぎ)のパンパン!の響きに喝を入れられながら全身耳となりました。「内容も面白かったが1時間くらい止まりなくずらずら話したことに驚いた。どれくらい練習したらあんなに自然な感じで話せるのか想像がつかないくらい」(金世熙さん・韓国)。「ときどきわからなくても講談師の表情や動作で何となくわかってくる。自分の日本語が上達したらもっとわかるはずだからがんばらなくちゃ」(蔡雅筑さん・台湾)といった感想が聞かれました。(得猪)



講談師、神田京子氏を囲んで@北とぴあ 13階

学 校 日 誌

○3月22日～29日 新入生インタビュー・予備授業

新入生の日本語レベルを測り、4月からの授業にスムーズに移れるよう、進学科の学生には山口校長(4月より)と木村先生、基礎科の学生には山口校長、山下先生、郷野先生がZoom等でオンライン面談や予備授業を行いました。

○3月31日 クラス分けテスト

○4月1日 オンライン入学式

○4月2日 英語クラス分けテスト(進学科)

○4月6日 漢字クラス分けテスト

レベル別に5つのクラスに分けました。緊急事態宣言中は午後の授業を完全オンラインで行っているため、漢字の授業は課題提出のかたちをとっています。

○4月14日 EJU チャレンジ模試

○4月26日 就職ガイダンス

○4月28日、30日 進学科座談会(学部)

○5月13日、14日 クラス内交流会

○5月17日、24日、31日、7月5日 就職セミナー

○5月26日 進学科座談会(大学院)

JLPT チャレンジ模試

○6月2日 AtoZ オンライン授業

○6月9日、7月19日 歌舞伎鑑賞教室

○6月17日 大学生とのオンライン交流会

○6月18日 日本事情 開始

○6月20日 日本留学試験(EJU)

○6月21日 能楽鑑賞教室

○6月22日 漢字クラス進級テスト

5級クラスの彭柏勳さん(台湾)が満点を取り、飛び級で翌週から一番上のクラスに入りました。

○6月28日 「よむよむ会」再開

○7月2日 オンラインサマーコース(中級) 開始

○7月3日 EJU 数学 オンライン体験授業

○7月4日 日本語能力試験(JLPT)

○7月7日 研究計画発表会

○7月8日 避難訓練

ビルの火災を想定して行いました。同じく7月に予定していた防災訓練は新型コロナウイルス感染拡大の影響により施設が利用できなくなったため中止しました。

○7月9日、12日 「漫才で学ぶ日本語」

○7月19日 大学生とのオンライン交流会

○7月20日、21日、28日 専門学校ガイダンス

来年の4月から専門学校への進学を考えている学生を対象に木村先生がガイダンスを行い、オンライン説明会や推薦、今後の流れについて説明しました。

○7月26日 東京ビジュアルアーツ専門学校体験授業

○7月29日 校内スピーチ大会

○7月31日～ EJU 対策講座(数学) 開始

○8月2日～20日 サマースペシャルクラス開講

大学生との交流活動

○ 月一で早大生らとオンラインイベント

4月から月に一回行われている早稲田大学の国際交流サークル WIC 主催のオンラインイベントに、JET の学生が参加しています。4、5、7月と3回参加した A クラスの鄭宇傑さん(台湾)に感想を聞いてみました。「日本語を勉強している人にとって、文法はもちろん、会話も大事です。そこでこの交流会がおすすめです。日本の大学生たちと直接交流する中で、日本の生活や今流行っていることがわかります。日本語の会話力をもっと上手にしたい方はぜひ参加してください!」

鄭さんは今年の4月にJETに入学し、台湾からオンライン受講を続けています。積極的に参加するその姿勢、日本語上達への鍵ですね。(郷野)



○ 6月17日 東京女子大、WICの大学生と

6月17日にDクラス(中級)の学生が大学生の皆さんとオンライン交流会を行いました。参加してくれたのは東京女子大学とWICの大学生です。

「乾杯!」の音頭(もちろんジュース)で始まり、初めは緊張した面持ちでしたが、話すうちに打ち解け、ゲームでは大いに盛り上がりました。学生からは「時間が足りない!」という声も。同世代の日本人との交流は新鮮だったようです。(山下)



○ 7月19日 東京女子大の学生と

7月19日、東京女子大学からお招きした大学生4名と、JETのFクラス、サマーコースの学生10名とでオンライン交流会をしました。グループに分かれ、それぞれ興味を持っていることなどをスライドで紹介し合った後で、しりとりやビンゴをしました。参加クラスにはオンライン受講の学生が多く、

普段はなかなか教師以外の日本人と話す機会がありませんが、この日はたくさん日本語を使って積極的に話している姿が印象的でした。(石津)

○ 8月4日 大東文化大、順天高の学生と

夏のスペシャルクラスに大東文化大学から4名と、順天高等学校から2名の学生をお招きして交流会をしました。

グループに分かれて自己紹介を終えた後は、「夏の過ごし方」をテーマに、写真や物を見せながら子供の頃の思い出を語ったり、凝った料理を作ってみる、今まで読まなかったジャンルの本を読んでみるなど、出かけられない今ならではの「おうち時間」の楽しみ方について話し合ったりしました。



○ 8月18日 大東文化大の学生と

8月4日に引き続き、スペシャルクラスに大東文化大の学生5名(うち2名は2回目の参加)をお招きして交流会を行いました。

一度話したということもあり、前回よりリラックスした様子で絵しりとりなどのゲームを楽しんでいました。参加した学生からは、「大学生が話す日本語が、全部はわからなかったけど、同じ趣味で話すことができ楽しかった」、「話せるかどうか心配だったけど、参加してよかった」といった感想が届きました。

「よむよむ会」再開

2020年2月を最後に、一年以上中止していた多読会(よむよむ会)を6月28日から再開しました。オンライン併用の対面式で始め、7月12日の緊急事態宣言再発令後は完全オンラインのかたちで行っています。

その日読んだ本について話し合う時間では、積極的に話す姿が印象的でした。本を読む場所は違っていても、同じ時間を共有できました。(山下)

